

「卵巢奇形腫の発生機序解明」に関する研究

1. 研究の対象

2012年4月～ 千葉大学医学部附属病院婦人科で卵巢奇形腫のため治療を受けられ、上記研究に同意の上参加していただいた方

2013年1月～2014年12月に千葉市立青葉病院、独立行政法人国立病院機構千葉医療センター、医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンター、国保直営総合病院君津中央病院、国保松戸市立病院で卵巢奇形腫のため治療を受けられ、上記研究に同意の上参加していただいた方

2. 研究目的・方法

卵巢奇形腫の発生機序解明を目指します。卵巢奇形腫の組織と患者さん自身の本人の多型マーカー（一般的に認められる遺伝子配列のバリエーション； Short tandem repeat: STR、一塩基多型 Single nucleotide polymorphism: SNP）やゲノムDNAのメチル化状態を比較して、卵巢奇形腫がどのようにしてできてくるのかを研究し発生機序を解明することを目的とします。

研究期間：2012年～2020年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：血液および手術で摘出された卵巢奇形腫組織の一部分等

情報：匿名化の上解析された多型データ等、一部はSNPアレイデータやメチル化アレイデータ等

4. 外部への試料・情報の提供

試料を匿名化の上、共同研究機関および民間外部委託解析機関で解析を行う

共同研究機関： 成育医療センター周産期病態研究部（秦健一郎 部長）

民間外部委託解析：秘密保持契約を結んだ上、匿名化試料の解析を依頼する

公共ゲノム・遺伝子データベースへの登録

本研究では、個々のアレイ解析等のデータを匿名化した状態で、公共ゲノム・遺伝子データベースである、米国の国立バイオテクノロジー情報センター（National Center for Biotechnology Information (NCBI): <https://www.ncbi.nlm.nih.gov>）に登録を予定しております。公共ゲノム・遺伝子データベースに登録されたアレイ解析データ等は保存・共有されます。データベースに登録されると、研究結果が科学的に正しいか評価をするために、第三者による検証が可能となります。また、データを共有することは、今後の医学研究の発展を図る上で重要と考えられます。

5. 研究組織

千葉大学大学院医学研究院 生殖医学 講師 碓井 宏和
千葉大学医学部附属病院 婦人科 科長 生水 真紀夫
成育医療センター 周産期病態研究部 部長 秦 健一郎

千葉市立青葉病院 産婦人科 西脇 哲二
千葉医療センター 産婦人科 岡嶋 祐子
千葉メディカルセンター 産婦人科 伊藤 桂
君津中央病院 産婦人科 木村 博昭
松戸市立病院 産婦人科 海野 洋一

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者

千葉大学大学院医学研究院生殖医学 講師 碓井宏和
千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1
043 (226) 2121 内線5312